

ユーラシアンホットライン

衷心より被災地の復興を祈ります

巨大地震、津波、原発被害で亡くなられ、行方不明となった多くの方々に心より慰霊の気持ちを捧げます。また被災され不自由な暮らしを強いられている皆様が早期に元の暮らしに戻ることを祈ります。募金や物資援助、復興ボランティアの拡大など支援の輪を広げ、地震大国になじまない原発のない循環型エネルギー戦略導入を訴えていきます。

NPO ユーラシアンクラブ・愛川サライ 理事長・支部長 大野遼

夏にチャリティコンサート、秋以降に慰問音楽キャラバンを構想

大野遼

NPO ユーラシアンクラブ・愛川サライの総会を終えた翌日 8 日深夜、国道 4 号線から 6 号線へと原付バイクを走らせて 12 時間、愛川町から東日本巨大地震と津波、福島原発の放射能汚染という三重被害に向かい合う福島県南相馬市を訪れた。この一ヶ月、「私になにができるか」と考えてきたことを実行するためであった。

テレビを通して刻々と映し出される押し寄せる津波。避難する人々。一瞬の差で助かった人。乗用車に乗ったまま流されて行方不明になった多くの方。海上流出家屋の屋根に掴まっていて奇跡的に助かった男性。また倒壊した家屋の間隙で耐え忍んで 9 日ぶりに救出された祖母と高校生がいる一方で、一瞬の間に手が離れ海に消えた孫への悔恨に打ちひしがれるおばあさんの姿。そして何よりも、広瀬隆氏が指摘した「原発震災」(『原子炉時限爆弾～大地震におびえる日本列島』/2010 年 8 月/ダイヤモンド社刊)の発生で、日本だけでなく世界が放射線被害の拡大を心配する事態に発展した。

東日本大震災の被害状況は、12 都道県で 1 万 2 9 8 5 人、行方不明者は 1 万 4 8 0 9 人で、計 2 万 7 7 9 4 人になった。負傷者は 4 6 4 6 人(4 月 1 0 日午前 1 0 時現在、警察庁まとめ)。津波で家を失ったり、被災した人々だけでなく、原発漏れ放射線被災 20 キロ圏からの避難者を含め、1 都 1 6 県の避難所約 2 0 0 0 カ所ですべて約 1 7 万人、それ以外の避難者を含め 24 万人以上が自宅以外での不自由な暮らしを強いられている。

インターネットやテレビで連日刻々と伝えられる被災地の現状に、メディアが対応し、日本国内だけでなく世界中から被災地救援、災害復興、原発災害阻止のための活動が続けられ、被災地の自宅を離れがたく不便な暮らしを選んだ人や体の不自由な方など、弱者への支援もようやく視野に入った援助、自治体から NPO 団体、最近では著名人による募金やチャリティの動きが活発だ。

私は、3 月 11 日の地震の 3 日後、予定していたユーラシアンクラブの新春交歓会を中止にする一方、なにができるか、何が必要かと考えてきた。その結果、日本人の琴線に触れる演奏を通してアジアの理解を図ってきた、アジア・シルクロードの音楽を被災地に届ける活動を考えることにした。

私が一緒に活動するアジアや日本の音楽家とともに、お金や物資ではなく、クオリティの高い音楽を届け被災者に喜んでもらおうという企画である。音楽家の協力が得られなければ実現しないのはもちろんであるが、日時、場所、被災地の状況、どんな考え方が可能かなど、受け入れ側の条件もよくよく考慮しないと進め難い。

私はこれまで、宮城県、福島県で、アジア・シルクロード音楽フェスティバルを開催した経験があるが、今回考えているのは、被災者を癒し元気につなげようという慰問の無料コンサートであり、このための音楽家の搬送のための車両や燃料、食費、宿泊費用を事前に確保する努力も必要になる。3 月 11 日をもって一変した被災地の現実と 3 万人に及ぶとみられる亡くなられた方、行方不明者への慰霊の気持ち、津波で一瞬に喪失した自宅、工場、一切の上屋施設、穏やかな暮らしを失った人々の暮らしの再建や災害地や海での遺体捜索を含めた災害復旧の現状を考えると、いまだ時期にあらずと考えている。

今回の被災地訪問は、この企画実施には、テレビの映像だけでなく、現地を訪問し、被災地の現状の一端を把握し、積極的な事業によって地域の文化芸術振興に取り組み福島、宮城の文化会館関係者と意見を交換することが必須と判断したためだ。

南相馬市は、市民の七割が他府県等へ避難、ゴーストタウン化から「消滅」へ

神奈川県愛川町の自宅を 8 日午後 6 時に出て福島県南相馬市に到着したのは翌日の午前 6 時。電話で聞いていたとおり訪問先の市役所の前の文化会館には、会館で寝泊りする航空自衛隊のジープ二台が会館正面に駐車。雨混じりの市外の朝は、人も車も殆どなく、町並みは見た目平常と変わらない印象。地震と津波、原発の三重の被害を受けたようには感じられなかった。しかし数歩歩んでそれは誤りだと気付いた。中央商店会の店々のガラスには軒並み「当分の間休業とさせていただきます」の白地に黒の貼紙が貼られていた。ガラス越しに見える店内は昨日の「6 強」の余震の痕跡。瓦屋根が大量に落下していたり、植木が散乱。旧家の土蔵の壁が落下、骨組みの竹がむき出し。訪れた文化会館のエントランスから 2 階のホワイエにあがる階段には縦に亀裂が入り、聞くとバ

トン落下や客席照明、スプリンクラーの故障など影響が出たという。

南相馬市役所のある原ノ町駅には運休した列車が停車。ホテルは休業状態に見え駅前には閑散。朝 7 時だというのに、やっと営業再開したばかりのコンビニに多くの人の姿があり、主婦に混じって年配の男性が多く、届いたばかりの新聞を買い求めている。

市役所玄関を入ると、ロビーに被害、避難所情報が貼り出され、ボランティア受付窓口には被災証明やボランティア受付など職員と市民のやり取りが絶えず、グループで活動するボランティア参加者が出たり入ったり。「名前があったら困るんだけど」と言いながら被害者名簿を指差しながら、連絡の取れない友の名前を探す女子高生 2 人の姿もあった。

常磐線の踏切を渡ると愕然とした。津波は、海岸から 2-3 キロにあった家屋、工場など一切を押し倒し、高台を乗り越え常磐線と並行して走る 6 号線のすぐそばまできており、目の前に広がる瓦礫と化した光景は言葉にならず、人事を超えた自然の営みにただ呆然とするばかり。他府県からの復興派遣車両や消防団、自衛隊が各所で、津波に押し流され積み上げられた散乱するソファなどの家財道具、建築資材、車、耕運機などの撤去に取り組んでいたが、まさに点のような作業で復活には何十年もかかると思われた。

会館の企画担当職員の話では、ホール事業は無期限中止の状態ではぼ年内は閉館状態の見込み。南相馬市は人口 7 万 2 千人だが、福島原発から 30 キロ圏内に位置し、20 キロ圏内の南部地域への避難勧告対象者や、被災者を含め、市民の約 7 割にあたる 5 万人近くの市民が他府県



へ避難。残っている市民は 2 万人から 2 万 5 千人とみられゴーストタウン化しており、千葉、茨城、福島、宮城の各県の太平洋側を經由して上野-仙台間をつなぐ常磐線も一部区間運行のみで、南相馬市は孤立している。ホール事業企画責任者も自宅が津波に遭い、市外の親戚に避難。電車もストップしているため通うこともできず無期限特別休暇状態。南相馬市は「屋内退避」が地震から一ヵ月後の 9 日「計画的退避地域」に指定された。南相馬市は、福島原発の事故によってゴーストタウンからさらに進み町一つ消失といってよい事態におかれる事になった。

現在福島県内の文化会館はほとんど事業中止の状態で、県立文化センターでは客席の天井が落下した等会館そのものが使用できなくなったところも多く、秋以降、演奏の場所、実施方法は相当考慮が必要になった。

私は、作曲家でもあるクオリティの高い仲間の演奏者と再度被災地を訪ねた上で、言葉にならない被災地の現状や復興への希望、アジアからのメッセージを込めた曲づくりを依頼し、

愛川町や日本橋での夏のチャリティコンサートで発表し、秋以降、被災地の福島、宮城のホール事業企画担当者と連携した被災地や避難先での慰問音楽キャラバンを実施したいと考えている。今回、宮城、福島の事業関係者 4 人と事業の展望について意見を交換してきたが、避難所での演奏は慎重に考え、「屋内避難」で、コンサート会場に足を運べないお宅や体の不自由な方など、演奏への希望や条件を把握しながら、現地のホール職員を通じた計画を立てたい。皆様のご理解、ご支援を心より願います。

地震大国がなぜ原発大国なのか

次は相模湾・駿河湾直下型地震警戒の声も

3 月 19 日に予定されていたユーラシアンクラブの新春交歓会は、岩手県及び茨城県沖で発生した巨大地震や津波による甚大な被害で多くの犠牲者が出ていることや、比較的被害の少なかった地域においても、家族や友人、知人に連絡が取れない人がいたり、公共交通も混乱し、生活や産業活動に多くの影響が及び、正常化には相当の時間がかかることが想定されたことから中止した。

ユーラシアンクラブの友人たちからは早速お見舞いメールが届いた。地震から一週間、北はロシア連邦サハ共和国、キルギス共和国、中華人民共和国新疆ウイグル自治区、ウズベキスタン共和国、マレーシア連邦、カナダ、アメリカ在住の友人が、日本語、ロシア語、英語で哀悼の気持ちを届けてくださった。中には、遠方ながら、希望があるなら 3 人ほどは受け入れるとのうれしい申し出や 5000 ドルの寄付金を被災地に届けたいとの声も届きました。

マントルの上に浮かんだプレートという名の大地の継ぎ目が日本列島。3 月 11 日午後、岩手県沖、茨城県沖で発生した巨大地震で多くの方が亡くなり、行方不明者も含めると 2 万人を超える人が犠牲となり、数十万人の人が家を失うなど被災したが、その後の「原発」事故がさらに犠牲を増やし、恐怖となっている。

ユーラシアンクラブでも、役員が経営する会社も液状化現象や水漏れ、店内の破損などの被害を受け、また地震や「原発」事故を原因とした計画停電による公共交通の運休で都内への足が奪われ、家族や知人の消息が途絶えた仲間も生まれた。築百年の日本家屋である我が家は、幸い被害は無かったが、前後左右に円を描くように揺れ続け、海岸から内陸数キロに渡って押し寄せた津波は、日本列島がプレートという地球を覆う「外皮」である地殻のバランスの上に浮かんだ浮遊物であることを思い知らされた。

地震による津波被害は、関東から東北にかけての太平洋側の沿岸沿いに幅数キロ、数百キロにわたって瓦礫と化し、被災者の暮らしの再建には長い時間がかかる。被災者の救済に政治の力が必要だが、全くリーダーシップが見えない。何よりも「原発」事故に対して事故処理も不透明で、政策的議論もない。今も震度 6 を上回る余震が続く。事故の危険度は最高のレベル 7 に上がり、事故後一ヶ月も経って炉心融解を示すストロンチウムが発表

された。チェルノブイリを超える汚染も予測されている。この列島に「原発」があつていいのか。今後予想される被災者、漁業、農業関係者への補償、町や村そして南相馬市のような 7 万人以上の町が一つ消滅しそうな状況下で、地震大国を原発大国にした「原発」推進者はどう責任をとるのか。我慢を続けている被災者に対して、国は、政治は、その役割を果たせるのか。事故や被害を直視しない姿勢に大きな疑問符(?)を呈せざるを得ない。

今回の地震で、「安全神話」は完全に崩壊した。私は、原発を廃止して、地下資源型エネルギー(石油、石炭、天然ガス、ウラン)に頼らない、循環型自然エネルギー開発戦略を一層精力的に取り組むことが必要だと思う。事故処理の費用の一環で挑戦するべきだ。それが日本やアジアの諸民族に喜ばれ、民族の共生に役立つ、人類最後のエネルギー革命につながる。

それにしてもテレビで止むことのない「危険だが大丈夫」「タバコを吸うより安全」といった類の垂れ流し情報にはあきれられるばかり。ネット上に「日刊ゲンダイ」掲載記事が紹介されていたので以下転載する。

だから東大教授はTVで「安全」を強調するのか

東電から大学院に6億円の寄付

原発事故が起きてから、原子力関係の東大教授がやたらとテレビに出るようになった。たいていは現状を追認して「心配ありません」と言うだけなのだが、これには理由がある。東大と東電はズブズブの関係なのだ。

まずは別表を見て欲しい。東大の「寄付講座・寄付研究部門設置調」という資料から、東電が出資している寄付講座を抜粋した。寄付講座とは、企業からの寄付で研究活動を行う研究室のようなもの。他社との共同のものもあるが、東電の寄付金の額を全部足すと、6億100万円に上る。ほとんどが大学院工学系研究科の講座だ。NHKによく登場する東大大学院の関村直人教授が所属しているのが工学系研究科である。東電からもらったカネで研究している学者が、東電に不利なことを言えるわけがないのだ。

東大の工学系の准教授が、匿名を条件にこう明かす。

「寄付講座は、当然、寄付者の意図をくんだ研究内容が多くなる。東電に限らず、大学の理系部門には電力会社による寄付講座がゴマンとあります。研究費がなければ、やりたいこともできないし、原子力関係は特にカネがかかる。だから、電力会社に研究資金を出してもらえる原発推進派でないといえないのが現実です。第一、原発がなくなれば、自分たちの食いがちがなくなってしまうのだから、必死で安全性をアピールするのです」

「関村教授、班目委員長、岡本教授...

まさに産学一体で、原発事業を推し進めてきたわけだ。

東電のカネで研究してきた東大教授は、自分の意をくんだ院生を助手にして後を継がせたり、息のかかった学生を東電や、東芝・日立などのプラントメーカーに送り込んできたという。

「関村教授と同様にNHKに頻りに出演する東大の岡本孝司教授も、『大丈夫です』しか言いませんが、彼は原子力安全委員会の班目春樹委員長が東大工学部教授だった時の教え子です。班目さんは原

発推進派の頭目みたいな人ですから、岡本教授が安心を強調するのは当然のこと。みのもんたの『朝ズバッ!』に出ている東大特任教授の諸葛宗男氏も、東電の寄付講座のおかげで、東芝の技術顧問から東大教授に転身したといわれている人ですから、批判なんてできるワケがありません」(前出の准教授)

諸葛氏が「朝ズバッ!」で「こないだの雨で放射能が洗い流されて綺麗になった」とか「1960年代には世界中で核実験が行われていたから、今よりも大気中にはもっと大量の放射性物質があふれ返っていた」とか牽強付会な自説を披露するのには、そういう背景があるのか。

中部大学の武田邦彦教授が、ブログでこう暴露して話題になっている。

テレビで「福島市の毎時20マイクロシーベルトはレントゲンの30分の1だから心配ない」と発言した当の東大教授が、自分の大学では「換気扇を止める」と指示した

東京の放射線量は、福島200分の1に過ぎないのに、外気が研究室に入ってくることを嫌がる東大教授。「東大の先生が安心というなら...」と信じてしまう善良な庶民はバカを見ることになる。

寄付講座・寄付研究部門名称/設置期間/寄付総額/寄付者
建築環境エネルギー計画学(東京電力)/H21~23/4000万円/東京電力

都市持続再生学/H19~24/1億5600万円/東京電力を含む14社

ユビキタスパワーネットワーク寄付講座/H20~25/1億5000万円/東電・JR東日本・東芝

核燃料サイクル社会工学/H20~25/1億5000万円/東京電力

低炭素社会実現のためのエネルギー工学(東京電力)寄付研究ユニット/H22~25/1億500万円/東京電力

「日刊ゲンダイ」(2011年4月7日掲載)

ユーラシアンクラブの仲間からお見舞いのメール(一部)

Dear Ohno-san,
My deep condolence to you and my Japanese friends due to tremendous earthquake and tsunami. I am more than believe that Japan people gets more stronger and more united to stand in this difficult time for Japan.
Very respectfully,
Victoria, British Columbia Canada

Oono-san,
The best regards to you from your friends from Yakutia. We have heard about severe earth-brake in Japan. I hope that everything with you and your family is good. If you need something to help please let us know.
Sincerely,

ono san konnichiwa o genkide irashshaymasuka.
 kochirade nihonno touhoku de okita taihenna jishin
 saigaino nius o mimashte totemo kanashiku
 naremashta taihendesune,
 fukushima kenni onosan to itta kotoga arimashte
 sono tokino yousu o kangaete taihen suraku
 naremashta
 minasan no go shinzoku youjinno minasanha
 dayjilyoubu deshyouka.
 ma nanimu iu koto nai taihenna saigai desune.
 ma konnan o kachi nuku shika naidesune.
 mata genkide o ai suru koto o inotteimasu.

Оно-сан,
 глубоко потрясен известиями из Японии о сильно
 землетрясении и за
 ним цунами, которые унесли чело
 жизни и привели к . Я
 выражаю глубокие соболезнования я
 народу, а также погибших и
 пострадавших в это трудное вре .
 уважением,

My dear friends
 My family glued to TV set watching horrific
 earthquake with great distress.
 We cannot even begin to imagine the pain and
 suffering of those families who lost loved ones going
 though. Our heart and prayer go out to all of you at this
 very difficult time.
 Now I am residing in Houston, Texas, USA with my
 family.
 We hope that your life back to normal soon!

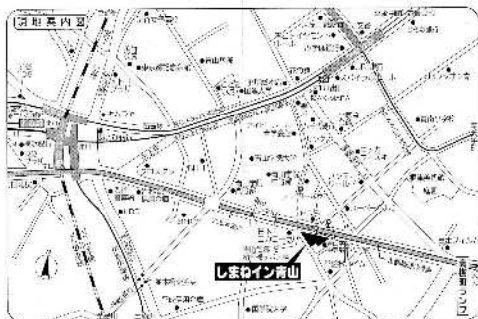
Ono san,
 O genki desuka?
 Watashi ha Malayshyano Kuantan to iu bashou ni
 imashta.
 Asoko de Nihonde no jishino koto kikimashita.
 Kino Kuala Lumpurni modorimashita.
 Kono yona taihenno jishin hontoini zannendesu,
 Nihon ha ouzena giseishya wo ukemashita.
 Watashiwa anata to anatano kazoku ha subetega
 umakute iru koto wo onegatte imasu.

【オクスス学会からお知らせ】(再掲)

E・V・ルトヴェラゼ著/加藤九祚訳
 『中央アジアの文明・国家・文化 シルクロード学序説』平凡社刊
 出版記念講演会(主催・オクスス学会)



しまねイン青山案内図 〒107-0062 東京都港区南青山7丁目1番5
 ☎03-3797-3399 (代)



表参道駅徒歩9分 (B1出口) 〇バス便のご案内 (渋谷駅東口より徒歩7分(久利用)
 都01系統 渋谷駅西1丁目(学院中等部前) 徒歩3分
 学03系統 日赤長崎センター前(青山学院中等部前) 徒歩4分

アレクサンドロス大王の率いる騎馬隊の響(くつわ)の轟きを聞いたことがありますか。玄奘法師の足音を耳を澄ましたことがありますか。中央アジアの大地と大河に人びとが送り届けたざわめきに耳をそば立て、おぼろな記憶の糸をたぐり続けた一人の穏やかだが強靱な知性が、最新の考古学的成果を携えて舞台上に登場する。みんなで共にこの舞台を盛り上げたいと思います。

ウズベキスタンからルトヴェラゼ教授(アカデミー会員)を迎えて中央アジアの文明を深く自在に語る会を下記のとおり開催致します。一人でも多くの方をお誘いのうえご参加下さるようお願い致します。

と き 2011 年 5 月 15 日(日) 1:30 開場 2:30 講演
開始

ところ しまねイン青山(東京都港区南青山 7-1-5
電話:03-3797-3399) 地図参照
* 駐車場はありません。

内 容 記念講演 2:30~4:30
(ルトヴェラゼ教授・重病のため来日中止)
「中央アジア最大の謎・クシャン朝誕生の背景」
=「序説」は国際シルクロード学の礎= 加藤九祚
出版記念会 5:00~7:00

会 費 9000 円(再検討中)

(上記新著を著者・訳者のサイン入りで進呈)

ご夫妻の場合:本は 1 冊、お 1 人様は本代を差し引きます。

資 格 オクサス学会の会員でなくてもご参加いただけ

ます。ご友人をお誘いください。
お申込 オクサス学会へメールで
(oxus@s09.itscom.net)

*参加者が複数の場合:全員のお名前をお書きください。

*ご夫妻の場合:「夫妻」とご明記ください。

メールをお持ちでない方はご友人のメールに連記してください。

定員は 150 名です。お申し込みはお早めに。

お問合せ こびき(048-866-1613

e-mail:kovik@mbe.nifty.com)

主 催 オクサス学会

発起人 加藤九祚 前田耕作

大野 遼 古曳正夫 高野直明 長澤法隆

二宮洋太郎 野口信彦 松田徳太郎 (アイウエオ順)

東日本大震災「つながり・ぬくもりプロジェクト」

～太陽光・太陽熱・バイオマスなどによる被災地支援～ ご協力をお願い

東日本大震災から 3 週間となりました。被災された皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。原発事故はまだ予断を許さぬ状況ではありますが、被災地では救出から支援、復興へと動きはじめています。

自然エネルギーを基盤とする持続可能な社会をめざす私たちも、さまざまな団体や企業、地方自治体などと連携・協力を広げてゆきながら、できうる力での被災者支援に乗り出したいと思えます。

まずは太陽光発電で被災地に電気を灯し、バイオマスと太陽熱温水で暖かいお湯を提供することから、自然エネルギーを利用した被災地支援プロジェクトを発足させることとしました。

被災地への連帯と支援の思いを太陽光の電気というかたちでつなぐ「つながり」そして私たちの熱い思いをバイオマスや太陽熱というかたちで支援する「ぬくもり」を続けて、「つながり・ぬくもりプロジェクト」と命名しました。

1. 協力団体

岩手・木質バイオマス研究会、エナジーグリーン株式会社、ぐるっ都地球温暖化対策地域協議会、環境エネルギー政策研究所、自然エネルギー事業協同組合レクスタ、WWF ジャパン、バイオマス産業社会ネットワーク、森と風の学校(岩手)ほか(今後拡大予定)

2. 支援活動の内容

・薪かまど、薪ボイラーによるお湯の提供(岩手・木質バイオマス研究会) まだガスやお湯がない被災地もあります。避難所に簡易式薪かまどを作製し提供します。また移動薪ボイラー車を制作し、巡回風呂サービスを提供します。

薪かまどは 1 基 3 万円程度。ボイラー車にはトラック借り上げ費用、お風呂キット購入費、移動の燃料代など、1 台 100 万円程度かかると見えています。

支援の詳細については、岩手・木質バイオマス研究会 HP にも掲載しています。<http://wbi.main.jp/>

その他、太陽光発電による電気の提供や太陽熱によるお湯の提供も行います。

2. 義援金としての寄付活動の開始

以上の支援活動を実施するために、広く一般から寄付を集めます。個人、企業、さまざまな団体での取り組み、ご協力をお願いいたします。

寄付の受け入れ窓口は、下記のとおり環境エネルギー政策研究所(ISEP)に開設し、ウェブ上での登録と寄付の振込みをお願いします。

三菱東京 UFJ 銀行 中野駅前支店(店番:552)

普通預金口座 0114940

名義:トクヒ)カンキョウエネルギーセイサクケンキョウジョギエンキンコウザ(特定非営利活動法人 環境エネルギー政策研究所義援金口座)

3. プロジェクト事務局

環境エネルギー政策研究所(ISEP)住所 東京都中野区中央 4-54-11

担当:氏家、黒住 TEL:03-6382-6061, FAX:03-6382-6062

E-mail:info01@isep.or.jp

4. プロジェクト関連ウェブサイト

<http://www.isep.or.jp/tunagari-project.html>

多くの皆様のご支援、ご協力をお願いできれば、真に幸いに存じます。

メディア・ユーラシア情報

東京外国語大学「日本語で読む中東メディア」が注目 <http://www.tufs.ac.jp/common/prmeis/fs/> です。(編集部)

世界からニッポン支援 被災地とのニーズ調整課題

Asahi.com 朝日新聞 2011 年 3 月 29 日

東日本大震災の被災者を助けようと、世界でニッポン支援の動きが広がっている。物資を日本に送るほか、自国内で募金集めのチャリティーコンサートや追悼式典を開くなど、民間の取り組みも目立つ。海外からの支援の申し出と被災地のニーズをどのように調整するかが課題となっている。

外務省によると、世界の 134 カ国・地域、39 国際機関から支援の申し出があり、28 日までに 24 カ国・地域から物資が届いた。中国、韓国などアジア諸国や欧米諸国を中心に、毛布が計 17 万枚以上届いたほか、大量の水や食料品が送られている。

課題となるのが、被災地の現状、ニーズと各国支援の調整だ。支援の申し出は震災直後から相次いだものの、当初は保管場所や輸送手段の確保に手間取り、受け取りまで時間がかかった場合もあった。

伴野豊外務副大臣は 28 日の会見で「今後の課題があるとすれば、被災者に負担をかけない中で、時間を置くことなく手当てをすることだ」と話し、調整の迅速化に努める考えを示した。(中略)

支援は先進国からだけでなく、「途上国からの支援も多いのが今回の特徴」(外務省幹部)だ。アフガニスタンが

2 千万円、ガボンが 8 千万円など寄付が相次ぎ、モンゴルは国家公務員全員が給与 1 日分を寄付することを決めた。同省では「自分の国が被災した時の日本の支援を覚えていて、感謝の気持ちを示す国も多い」とみる。

国連の 28 日現在の集計によると、諸外国の政府や企業・団体からの支援物資や資金は 22.5 億円相当にのぼる。日本は今年の人道支援分野の拠出が世界 3 位という「援助大国」だが、震災後、支援を受ける「被援助国」としても急浮上し、28 日にはスーダンに次ぐ 2 位になった。海外の支援物資や義援金は未集計のものも多く、総額は今後、さらに増える見通しだ。

外務省によると、民間レベルでも様々な動きがある。中国では、日本大使館のミニブログに 5 千件近くの支援の声が寄せられた。ウクライナやオランダの市民が千羽鶴を折るなど激励メッセージを寄せたほか、ブラジルではサッカー元日本代表監督のジーコ氏の呼びかけで、元 J リーガーらによるチャリティー試合を 4 月上旬に予定。募金活動も世界で広がり、台湾のテレビのチャリティー番組では数十億円が集まった。(大島隆)

<http://www.asahi.com/international/update/0328/TKY201103280392.html> より

西アジア

ナゴルノ紛争捕虜交換へ アルメニア、アゼルが合意

産経ニュース 2011.3.6

アルメニアのサルキシャン、アゼルバイジャンのアリエフ両大統領は 5 日、ソ連崩壊前後に両国間で発生したナゴルノカラバフ紛争で生じた戦争捕虜の交換を「可能な限り短期間のうちに」実現することで合意した。インタファクス通信が伝えた。

両大統領は同日、ロシア南部ソチで、メドベージェフ・ロシア大統領の仲介で会談。全ての問題を平和的手段で

解決するなどとした共同声明を発表した。

アゼルバイジャン領内のナゴルノカラバフ自治州で多数を占めるアルメニア人は 1988 年にアルメニアへの編入を要求し、91 年に「共和国」樹立を宣言。これを認めないアゼルバイジャンとの戦闘に発展した。ロシアなどの仲介で 94 年に停戦するまでに推定約 1 万 8 千～3 万人の犠牲者が出た。(共同)

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/110306/erp11030601300000-n1.htm> より

中央アジア

民間人犠牲、過去最多に = 昨年 2777 人、アフガン戦闘激化 - 国連調査

【ニューデリー時事】国連アフガニスタン支援団(UNAMA)は 9 日、アフガン戦争に巻き込まれて死亡した民間人の数が 2010 年の 1 年間に 2777 人に達し、過去最多を記録したと発表した。

駐留国際部隊を含むアフガン政府側勢力と、タリバンなど反政府勢力との戦闘が激化し、反政府勢力による仕

掛け爆弾攻撃や暗殺事件が増加したことが主因。戦争が長期化する中、民間人の犠牲が止まらない実態が改めて浮き彫りになった。

オバマ米政権は昨年 3 万人の米軍増派を行い、タリバンの牙城、南部地域などで軍事作戦を強化。これが戦闘激化の要因になったとみられる。

国連によれば、過去 4 年間の死者は計 8832 人で、毎年増加。10 年は前年より 15% の増加で、うち 7 割

強は反政府勢力の攻撃が原因という。特に、暗殺の死者は 4 6 2 人で 0 9 年の 2 倍以上に増加。うち半数以上がアフガン南部地域で発生した。(2011/03/09-19:45)

時事ドットコム

<http://www.jiji.com/jc/zc?k=201103/2011030900937>

より

バーミヤン石仏、復元見送り = 「暴力の証拠」に保存 - ユネスコ

【パリ時事】アフガニスタンのバーミヤン遺跡の保存策を話し合う国連教育科学文化機関（ユネスコ）の専門家会合がパリで今月開かれ、イスラム原理主義勢力タリバンが 2 0 0 1 年に破壊した巨大石仏 2 体に関し、完全な復元を当面見送る方針を決めた。必要な科学的データが十分にそろっていないことや、費用面を考慮した。

アフガンの閣僚らを交えて開かれた会合は、2 体のうち大きい石仏（高さ 5 5 メートル）について、崩落防止の措置を施した上で「暴力行為の証拠」として破壊されたまま残すことで合意。小さい石仏（同 3 8 メートル）は、破片を組み合わせて部分的に復元することが選択肢となり得るか、さらに検討するとした。時事ドットコム（2011/03/18-15:08）

<http://www.jiji.com/jc/zc?k=201103/2011031800612>

より

闘牛ならぬ「闘ラクダ」、新年祝う伝統行事 アフガニスタン

AFP BB NEWS 2011 年 03 月 25 日 19:03 発信地: マザリシャリフ/アフガニスタン

アフガニスタン北部のマザリシャリフ（Mazar-i Sharif）で 22 日、ウシではなくヒツジやラクダを闘わせる催しが開かれた。

アフガニスタン暦で元日にあたる 21 日からマザリシャリフで開催されている祝祭には、アフガニスタン全土から大勢の人びとが集まっている。闘牛ならぬ「闘羊」や「闘ラクダ」も、新年の訪れを祝う伝統行事の 1 つだ。

春分の日 21 日を新年の祭日とするノールーズは、トルコやイラン、イラク、中央アジアやアゼルバイジャンなど、世界各地で幅広く祝われている（2011 年 3 月 22 日撮影）。(c)AFP/Massoud HOSSAINI

http://www.afpbb.com/article/life-culture/life/2791900/6992826?utm_source=afpbb&utm_medium=topics&utm_campaign=txt_topics

より

アフガン政府が被災者に義援金 1 0 0 万ドル

【イスラマバード = 横堀裕也】アフガニスタン政府は 2 9 日、東日本巨大地震の被災者に対し、1 0 0 万ドル（約 8 2 0 0 万円）の義援金を送ったと発表した。

同政府は声明文で、「日本はアフガンの最大の支援国の一つで、国民は常に感謝の心を持ち続けている」とした上で、「我々自身も財政問題を抱えているが、日本の復興に向け、積極的に貢献したかった」としている。

（2011 年 3 月 29 日 21 時 51 分 読売新聞）

<http://www.yomiuri.co.jp/world/news/20110329-0YT1T00927.htm?from=navr>

より

（不連続掲載）【アジアから見える日本考】第 1 回 命の火、浄化の火

大野遼

「火は命」 - 。この言葉は、シベリア・極東の先住民族の一つで、ナナイ人のウザ・グリゴリーさんが、沿海地方シホテアリン山脈の狩猟小屋で、鉄板で構築した囲炉裏に薪をくべ、手をかざしながらポツリと語ったものである。人間は、古来、「火」「炎」に正邪善悪を判別し邪悪を払い清める力があると考えてきた。ウザさんがポツリと語った言葉にも、火に対する厳粛な態度がこめられていた。

人類の歴史は火起こしから始まっており、火は、人の心に投影され、さらに小さな太陽としても受け入れられた。石炭、石油、天然ガス、そして原発につながる人類最初のエネルギー革命であった。そして現在再び、太陽エネルギーが見直されようとしているが、それまで太陽しかなかった熱源、光源に対して、火に対して潜む奥深い思いは人類共通だ。調理や暮らしを照らす灯火の火だけでなく、火と火の間を通り抜けることで、穢れを払い一年間の無事を祈る習俗は世界各地に知られている。

1 2 4 6 年、ローマ教皇イノセント四世が派遣したジョヴァンニ・カルピーニがボルガ川の河口近くにあったモンゴルの幕営に立ち寄った時、火と火の間を通り抜けさせられた。現代で言えば、テロリスト防止や危険物持ち込みチェックの

ための空港のチェックインカウンターのようなもので、カルピーニは「・・・使節、諸侯、そのほか何びとであろうと、タートル人のもとに来たときは、彼ら自身やその携えてきた贈物も、お祝いをしてもらうために、火と火の間を通りぬけねばなりません。それは、(やってきた人たちが)ひよっとして呪術を施したり、また、毒やそのほか危害を及ぼすようなものを持ち込んだりしないためです。・・・」と紹介し、(王が死んだとき)幕営の人々は「火によって清められねばなりません。・・・火を二箇所燃やし、それらの近くに槍を一本ずつ立てて、この二本の槍の先端に縄を一本張りわたし、そしてこの縄の上にベッカラン布(?)の小片を結びつけます。・・・(両側に一人ずついる女が呪文を唱えながら火をふりまく間を)・・・人間・動物のみが幕張群まで通り抜ける」と「浄化の火」について記した。

しかし、私が住む神奈川県愛川町の八菅神社をはじめ日本の全国各地の社寺で行われている護摩法要や火祭りの儀式は、もともと奈良時代に伝わった大乘仏教・密教の儀礼で、さかのぼるとペルシャ系の文化としてのゾロアスター教やバラモン教(インドにおける支配民族を最高カースト・ブラフマン中心とする古代ヒンズー教)の習俗が仏教へ吸収され

で行われていると考えられている。ゾロアスター研究の第一人者岡田明憲氏によれば、東大寺の元長老が「東大寺の仏教はゾロアスター教と深い関わりがある」との発言をしていたという。

八菅神社の護摩供養火生三昧の修法は、東大寺二月堂で良弁の弟子実忠が始めたお水取り（天平勝宝 4 年 752 年から 2011 年で 1260 年毎年続く）と深い関わりがありそうである。一つは、行事の一番のクライマックス精進潔斎の練行衆が別火（娑婆の火に対して、「俗と別けた聖火」の火という意味）坊で採火された火で燈された大松明の火の粉を人々は一年の無病息災のお守りとして持ち帰る。これは八菅神社で護摩供養火生三昧（火渡り）が人々の無病息災を願って行われること



に通じる。一つは、良弁、行基、空海など当時の奈良仏教界の人的関係が相模国に投影されている。一つは、東大寺 二月堂と国分寺 八菅神社 大山神社という奈良と相模国の間を結ぶ観音信仰、弁才天信仰のシステムがみえる。

（続く）

（メモ）《二月堂の鞞鞞（サンスクリットで「焼く」の意味）の行法》は「火天」（大松明を持った練行衆）「水天」（十一面観音に備える闍伽【サンスクリットで「水】を持った練行衆）ら八天が行う行法。3 月 12, 13, 14 日の深夜、二月堂の須弥壇のある礼堂で行われるもので、「火天」は内陣で大松明を振り回して人々の煩悩を焼き尽くさんばかりに踊り、相對する「水天役」は灑水器（しゃすいき）と散杖（さんじょう）を持って水を撒き、「浄化」「煩悩を焼き尽くし、冷やす」という意味のある行事。大松明は、須弥壇のある礼堂に突き出す所作のほか、回廊の欄干から突き出す所作で飛び散った火の粉が人々のお守りとなるとされる。

愛川町での再研修受け入れ断念をサハ側に通知

ロシア連邦サハ共和国の子ども太鼓グループ「テティム」受け入れ中止

ロシア連邦サハ共和国の子ども太鼓グループ「テティム」ら和太鼓研修団 26 人の今夏受け入れは断念することになりました。岩手・茨城県沖地震・津波による被害、特に原発事故による放射能漏れの行方など三重の広域被災からの復興の見通しが立たず不安を与えているためです。サハ側の指導者は来日を希望していますが、今回は中止としクラブとしては被災地への支援の進め方を優先し取り組むことにしました。快くご協力を約束していただいた愛川高校、愛川魚苑ほか関係者の皆様には深くお詫び申し上げますと共に、将来再来日の希望が示され、条件が好転した場合には再度お願い申し上げたいと希望しており、その際はどうぞご協力をいただけるように切にお願い申し上げます。

愛川サライ総会開催され、活動報告、決算報告など承認

NPO ユーラシアンクラブは 7 日、愛川町中津の山十邸で総会を開催。2010 年度活動報告・決算報告を承認し、今後の活動について協議し、総会后愛川サライの竹藪前で焚き火を囲み懇談しました。

ユーラシアンクラブ・愛川サライの運営スタッフを募集します。アジア・シルクロードの諸民族の方々との交流を通して、アジアを視野に国家民族宗教を超えた理解親睦協力を促進し、諸民族の共生、自然との共生を模索して活動します。

アジア各地からの投稿を歓迎します。ユーラシアンクラブ・企画編集委員会までお知らせください。

発行：特定非営利活動法人ユーラシアンクラブ 発行人：大野 遼
住所：〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-11-5 TEL：03-5376-9343
支部愛川サライ〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津 6314 - 1
TEL/FAX：046-285-4895 E-MAIL：paf02266@nifty.ne.jp
郵便振替：00190-7-87777 ユーラシアンクラブ お振り込の場合：ゆうちょ銀行 0 一九店 当座預金 0087777 ユーラシアンクラブ サポート会費、ご寄付はこちらへ。会費は年間一口 6,000 円、一口以上のご協力をお願い申し上げます。

<http://eurasianclub.cocolog-nifty.com/>

2011 0401 Non Profit Organization Eurasian Club

編集後記：311 は 911 に匹敵するほどの記憶すべき日となった。民族の共生、自然との共生を掲げて活動してきたが、地下資源依存型の暮らしを転換しなければ人類は生き残れないことを改めて知らしめた。3 月 19 日の新春交歓会は中止せざるを得なかったが、もう一度立ち止まってよく考えよということかもしれない。とはいえ日本の政治は上滑りしている。地震を契機に原発事故が起きたら、「一人ひとりの生活を見直す」とか「自販機もパチンコモやめろ」などと言っている。見直すのは「原発」依存やエネルギー政策であろう。この国は今の政治家ではもたない。アジアと共にエネルギー政策を転換しようという新しい政治家は出てこないだろうか。5 月には総会を行いたい（お）